



平成21年7月3日

各 位

会 社 名 株式会社ファーマフーズ  
代 表 者 名 代表取締役社長 金 武 祚  
コ ー ド 番 号 2 9 2 9 ( 東 証 マ ー ズ )  
問 合 せ 先 取締役経営企画部部長 皿谷和久  
T E L 0 7 5 - 3 9 4 - 8 6 0 0

## 業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績の動向等を踏まえ、平成20年9月12日に発表いたしました平成21年7月期（平成20年8月1日～平成21年7月31日）の通期業績予想を下記のとおり修正いたしましたので、お知らせいたします。

記

### 1. 平成21年7月期の業績予想の修正（平成20年8月1日～平成21年7月31日）

（金額単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想（A）	1,050	28	58	53	902円12銭
今回修正予想（B）	730	262	199	207	3,523円40銭
増 減 額（B - A）	320	290	257	260	-
増 減 率（％）	30.4	-	-	-	-
（ご参考） 平成20年7月実績	810	452	407	455	7,744円97銭

### 2. 修正の主な理由

昨年9月のリーマンブラザーズの経営破たんを端を発した世界的な金融危機や経済不況、その影響による大幅な為替変動を踏まえて、当社では当初予定しておりました経営目標を達成すべく、昨秋より営業戦略の見直しを図り、新たな提携先の開拓・営業方法の見直し等を進めてまいりました。しかしながら、経済環境の激変と景気低迷の長期化は当社の予想を大きく超えるもので、機能性食品という高付加価値の食品に対するニーズは一般食品以上に落ち込みが厳しく、また、大幅な為替変動により価格引き下げを余儀なくされました。その結果、海外では、アメリカ・韓国で売上の低迷が見られ、また、中国においても主要な営業見込み先でありました乳業メーカーを中心に、昨年発生しましたメラミン事件の後遺症がまだ残っている状態で、積極的な販売活動にまで至りませんでした。

国内においても、高付加価値品に対する消費低迷が顕著となり、新製品の取り扱いも振るわず、また、既存製品についても全般的に売上減少となったものです。

なお、平成21年6月12日に発表いたしました投資有価証券評価損の計上につきましては、株価変動により現在も未確定の状況であるため、当業績予想の数値に含めておりません。通期業績に与える影響につきましては、確定次第速やかに公表いたします。

### 3. 今後の展開と対応策

当社は前事業年度において純損失455百万円を計上し、今期においても純損失260百万円が見込まれます。

当社は、当該状況を解消し、平成22年7月期での黒字転換を図るべく、以下のとおり対応してまいります。

(1) 営業面については、中国市場で平成20年9月にボーンペップが新資源食品の許可を取得し、また、ファーマギャバも同許可に向けた公示が現在なされており、本年7月中にも同許可がなされる見込みです。また、同7月初旬には北京に中国初の駐在員事務所を開所見込みです。それらを踏まえて中国での営業展開の早期立ち上げを目指してまいります。また、韓国においても、葉酸たまごのラインナップ拡充を目指した活動を昨秋よりすすめており、来期上期中での実績を目論んでおります。

国内営業につきましても、経済環境に影響を受けない強固な営業基盤を形成すべく、業種・業界の見直しをすすめ、また、製品ラインナップの拡充による売上の安定化を図っております。

(2) 開発面については、今年度に引き続き、各製品毎に生産技術開発をすすめ生産効率の改善を図ることで、生産コストの削減による利益率の改善とコスト競争力の向上による営業拡大を図ってまいります。

(3) 管理面につきましては今期実施しました研究開発費、人件費などの販売管理費の削減を今後も継続し、効率的な運営による体質強化を図ります。

以上